

## I 学校経営の基軸

### 1 学校教育目標

胸を張り 理想にもえる健康人①  
肩を組み 平和で民主的な②社会人  
賢く③正しく 正義を愛し④創造性豊かな⑤文化人  
やり通そう 意志の強固な実行人⑥

(1) 最上位目標 「自立した学習者を育成する」

(2) 育成を目指す資質・能力

- ①学びに向かう力（③、⑤に依拠）
- ②心身の健康を維持、増進する力（①、⑥に依拠）
- ③共生する力（②、④に依拠）

学校教育目標とは、この学校の行動原理であり、すべての教育活動において実践されるべきものです。この学校に関わるすべての人に理解し、覚えてもらえるものとするために、最上位目標と3つの資質・能力に整理しました。

保護者ならびに地域の皆様におかれましては、この目標を学校と共有し、地域の教育活動推進に向けた協働をお願いいたします。

## 2 基本理念

- (1) あらゆる場面で生徒を中心に据えた教育活動を展開する。
- (2) 地域・保護者と協働して教育活動を展開する。
- (3) 社会の変化に対応し、合理的かつ柔軟な教育活動を展開する。
- (4) SDGsに基づく教育活動を実践する。

教育活動を実践する上での考え方を示したもので、「生徒中心」「協働」「多様性」をキーワードとして取り組んでまいります。特に、地域の皆様には学校のよきパートナーとして、ともにこの地域の子どもたちを育ててくださいますようお願い申し上げます。

また、将来の世界を担う子どもたちを育てる学校としてSDGsの考え方に賛同し、教育活動に取り組んでまいります。17の目標のうち、右の4つを学校経営方針の中に取り入れております。



## II 学校経営の目標

## 1 めざす生徒像（学校課題）

- 自ら考え、真理を求めて行動する生徒 【学びに向かう力】
- 健康な心と身体をもち、未来に向かって前進する生徒  
【心身の健康を維持、増進する力】
- 自他をともに尊重し、力を合わせて社会を形成する生徒 【共生する力】

本校は、こんな資質・能力を持った生徒を育成します。

	学びに向かう力	心身の健康を 維持、増進する力	共生する力
3 学 年	・それまでの学びを新しい 発見や創造につなげる生徒	・自らの身体を理解し、生 活管理ができる生徒 ・自己肯定感を持ち、自立 への希望を持つ生徒	・社会参画の意識をもち、 地域社会に貢献できる生徒
2 学 年	・学習や作業に打ち込み、 磨き合い、高め合う生徒	・互いに協力して安全で衛 生的な環境を構築する生徒 ・心のレジリエンス <sup>*1</sup> を身 に付けた生徒	・多様性を尊重し、より良 い集団づくりに取り組む生 徒
1 学 年	・学び方を身に付け、自ら の学びを調整でき生徒	・自らの心身の発達に伴っ た健康の維持、増進に努め る生徒 ・思いを言葉にできる生徒	・あいさつ、言葉遣い等の 基本的な礼節を身に付けた 生徒

※1 レジリエンス：困難に直面した際にうまく適応しながら成長する能力。または  
ストレスを受けた後の回復力。「折れない心」とも表現されますが、ここでは強い  
耐性ではなく、うまく受け流すしなやかさと解釈します。

学校運営協議会が掲げる「目指す15歳の子ども像」の具現化に資するため、学校教育  
目標を具体的な生徒の姿として文章化しました。これを生徒、保護者および地域の皆  
様方と共有しながら教育活動を進めてまいります。

また、学力調査の結果等を踏まえ、本校の課題を明確にしながら、教育活動の質的向  
上を図るために、育成すべき資質・能力を明確にしました。

## 2 めざす教師像

- (1) 教育に対する情熱と使命感にあふれ、切磋琢磨して指導力を磨き続ける教師
- (2) 広い視野と豊かな感性をもち、コミュニケーション能力の高い教師
- (3) 合理的で柔軟な思考をもち、主体的に学校経営に参画する教師

## 3 めざす学校像

- (1) すべての生徒が学ぶ喜びに満ちあふれている学校
- (2) 教育効果に責任を負い、保護者から信頼される学校

- (3) 教職員がやりがいと誇りをもって働く、教育効果の高い学校
- (4) 地域と共に社会の担い手を育成し、地域に貢献できる学校

### Ⅲ 今年度の重点と具体的方策

#### 1 学校安全

**【重点】** 学校に関わるすべての人の生命・人権の安全を保障し、学校に対する信頼を獲得する。

- (1) 明確な方針をもった組織的な指導でいじめ・不登校問題等生徒指導上の課題解決を図る。  
(生活安全)
- (2) アンケート調査等によるアセスメントの実施と教育相談体制の確立により、生徒の不安を早期に発見し、解消することで安心して学べる環境づくりを推進する。(生活安全)
- (3) 危機管理マニュアルを整備・活用し、保護者および地域と協働する危機管理体制を整える。  
(生活安全・交通安全・災害安全)
- (4) 救急救命に関する研修を計画的に実施するとともに、普通救命講習の受講をすべての教職員の努力義務とする。(生活安全)

学校は子どもたちの命を預かる場所です。安全がすべての基本となると考え、最優先の課題として位置づけています。すべての生徒が明るく学校生活を送ることができるよう、個別の課題に対しても学校を挙げて組織的に対処してまいります。

#### 2 教育課程

##### (1) 特別支援教育

**【重点】** すべての生徒を対象に、個の特性に合わせた多様な学びを提供する。

- ① 指導と評価の一体化を進めて個の特性を見取り、指導の個別化と学びの個性化を推進する。
- ② 特別支援教育コーディネーターを中心として、全校体制でインクルーシブ教育を実践する。
- ③ 学びの支援委員会において評価・分析を行い、明確な目標と具体的な方策をもって組織的に指導に当たる。

在籍する学級が通常学級であるか特別支援学級であるかに関わらず、必要な教育的支援をあらゆる場面でを行い、すべての生徒を包み込むインクルーシブ教育と、さまざま特性をもった生徒たちが皆同じ立場で主体的に参加できる（ユニバーサルデザインの）教育活動を進めてまいります。

##### (2) 確かな学力の育成 → 資質・能力①

**【重点】** 学びに向かう力の伸長を図る。

- ① 全ての教育活動において苫小牧市共通取組場面を確実に実践し、生徒が主体的に学ぶ力を高める。
- ② 単元の計画を生徒と共有して指導と評価の一体化を図り、学びを調整する力を高め、望まし

い学習習慣の定着を図る。

- ③総合的な学習の時間を核として教科等を横断した実践的な学びを展開し、習得した知識・技能の発現と汎用化を図るカリキュラム・マネジメントを推進する。

本校においては、学力を「学びに向かう力」と定義して、生徒が自ら学びに向かい、試行錯誤の末に資質・能力を高めていく教科指導を目指します。その実現のために、生徒が何を学び、何ができるようになったかを明確化することで動機付けを図ります。また、学んだことを生かして何ができるかを試したり、そこから学びを修正したりすることを通して生きてはたらく知識・技能が習得できるよう学校の教育課程全体をより系統性のあるものにしていきます（カリキュラム・マネジメント）。

### （3）健やかな心身の育成 →資質・能力②

#### 【重点】自ら健康の維持・増進に取り組む態度の育成

- ①思春期の身体の発達と性について理解を深める指導を行う。
- ②思春期の心の変化やストレスへの対処について理解を深める指導を行う。
- ③防災、防犯等の安全教育を外部機関とも連携しながら推進する。
- ④心身の健康維持の視点に立ったメディアリテラシーの育成および啓発活動を推進する。

本校では、単純な体力向上やスポーツ振興に傾斜することのないよう配慮しつつ、中学生の発達段階を考慮して、自らの健康の維持・増進を図る力の育成に取り組みます。身体的な発達および保健の面では、性教育から防災等の安全教育、メディアと健康の関わりなどを、精神的な発達や保健の面では、ストレスにどう向き合うか、困ったときにどのように周囲と関わり、援助を求めるかなどについて理解を深められるよう指導することで自分だけでなく、他者の健康や安全までを考え、行動できる生徒を育成します。

### （4）豊かなこころの育成 →資質・能力③

#### 【重点】多様な他者と共生する意識の醸成

- ①あいさつを励行し、心の通うコミュニケーションの基礎を築く。
- ②校内の環境美化に努め、落ち着きと潤いのある学習・生活環境を整える。
- ③生徒自らが考え、議論する道徳授業を展開し、道徳的価値の根拠を自分の頭で考え、再構築する力を養う。
- ④自律した集団生活が営めるよう、特別活動において自治を学ぶ場面を意図的に設定する。
- ⑤外部人材の活用や外部機関との連携により、価値観の多様化に対応しながら主体的に生きる態度および望ましい社会参画の意識を育てる。

自立に向けて基本的なコミュニケーション能力を身につけられるよう、あいさつの励行から取り組みます。また、多様性を尊重し、お互いの個性を相互補完的に発揮しながら社会を形成していけるよう、寛容の精神を育むとともに、生徒が自ら規律をつくっていく自治的な活動を取り入れていきます。

本校は、個性と人格を最大限尊重した生徒指導を実践することで自己肯定感を育て、望ましい倫理観と社会参画の意識を育みます。

### 3 研究体制

【重点】 学びに向かう力を高める質の高い教育活動を追求する。

- (1) 指導と評価の一体化を具現化する研究を推進する。
- (2) 単元の指導計画と結びつけた評価・評定の在り方の研究を推進する。
- (3) 生徒の自律を促す学級経営、生徒指導に関する研究を推進する。
- (4) 校長および教職員は、積極的に校外研修に参加し、その成果を相互に還元し合う。

生徒が自ら学び、資質・能力を高められるようにするためには、自らの学びを振り返り、成果と課題を明確につかめるようにすることが肝要です。そのためには、教職員が生徒の学びを的確に見取る評価とその評価に基づく適切な指導を繰り返して教育活動の改善に努めなければなりません。自立した学習者を育成するため、今年度は特に指導と評価の在り方について焦点を当て、研修に取り組んでまいります。

### 4 小中連携の推進

【重点】 「目指す15歳の子ども像」の具現化に向けた小中協働体制を構築する。

- (1) 小中が課題と目標を共有して円滑な小中接続を実現し、地域の子どもの学びと育ちの連続性を保障する。
- (2) 学校教育力向上エリア会議を通じて小中共通の取組を実践し、成果と課題を検証する。
- (3) 学校行事等を通じて、児童生徒の交流を図る。

小学校とのより一層深い連携を図り、「目指す15歳の子ども像」の具現化に向けた学習指導、生徒指導の改善に努め、この校区の子どもたちが9年間一貫した指導を受けられる体制づくりを目指します。

### 5 家庭・地域との連携

【重点】 家庭・地域とのパートナーシップを構築する。

- (1) 個の学び・育ちについて、客観的な事実に基づく現状を保護者と共有し、将来像を描きながら必要な指導・支援について共通理解を図るとともに、その成果と課題を確認する。
- (2) 学校の教育活動を積極的に公開し、保護者および地域との連携の円滑化を図る。
- (3) 学校ホームページ、一斉メール等による積極的な情報発信を行い、教育活動のあらゆる面において説明責任を果たす。
- (4) コミュニティ・スクールを一層推進し、学校の責任の限界を明確にしながら保護者や地域と協働して地域の子どもを育てる体制を構築する。
- (5) 年2回の学校評価を行い、教育活動の成果と課題を確認するとともに生徒・保護者および地域の声を学校改善に生かす。
- (6) 保護者および地域と連携し、部活動の地域展開を段階的に推進する。

保護者の皆様は家庭で、地域の皆様は地域で、そして学校は学校教育においてともに目標を共有して子どもたちを育てていける関係の構築を目指してまいります。

学校は、ご家庭と課題を共有するだけでなく、成長を喜びを分かち合えるよう、学校の指導と子どもたち一人一人の学びや育ちについて成長を保護者の方と語り合える時間と場の確保に努めます。

また、コミュニティ・スクール（地域とともにある学校）として、将来の地域社会の担い手をどう育てるか、そのために学校教育ができることは何かを地域の皆様とともに考え、実践していきたいと考えております。

学校としましては、皆様の声に真摯に耳を傾け、教育活動の目的や手立てを明確に示すことで、皆様との間に同じゴールを目指す真のパートナーシップを構築できるものと考えます。保護者や地域の皆様にも、家庭や地域としてでできることは何かをお考えいただき、ご提案をいただければ幸いです。

加えて、令和10年度に向けて本市における部活動の地域展開が進んでまいります。この地域における子どもたちの健全育成のために保護者並びに地域の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

## 6 働き方改革

【重点】「学校の当たり前」を見直し、コストパフォーマンスの高い業務推進を目指す

- (1) 見立て、手立て、目標を明確にし、働きやすさと働きがいを実感できる合理的な教育活動・校務運営を推進する。
- (2) 働き方改革コアチームを中心として、学校規模に合わせた校務運営組織を構築する。

学校における働き方改革の目的は、あくまで教育の質的向上です。「働きやすさ」とは、仕事を減らして楽をするということではありません。職務と生活のバランスをとって健康を保つこと、ストレスを低減する職場環境をつくることで教職員にとって働きやすい学校にしていきます。また、教職員がその職務に誇りと喜びを感じられたときに「働きがい」が感じられ、教育効果も高まるものと考え、個々の教職員の能力を引き出せる学校経営に努めてまいります。

今、学校が求められている教育課題の解決に取り組みながら、教育効果を高めていくためには、時間の有効な使い方を追究する必要があります。与えられた時間の中で結果が出せる学校を目指して教職員一同、研鑽を積んでまいりますので、その一貫として行う業務の効率化・合理化に引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

教職員のよい生き方は、必ず生徒のよい生き方につながります。心身ともに健康で、生き生きと学び、働く教職員のもとでこそ、学ぶ力を高め、自らの心身の健康を増進し、共に生きる力を身に付けた生徒が育つことが期待できます。